



重文指定の 灯台どうだい?

不動まゆう

いづもひのみさき
出雲日御崎灯台
(島根県出雲市)

⑧

日本で一番背の高い歴史的灯台。その高さは43メートルで灯塔の外側は石、内側は煉瓦による二重構造となっている。

R・H・プラントンが御

前崎や大吠埼灯台で採用した煉瓦の二重円筒構造を元に、異素材で試してみたのだろうか。お雇い外国人が帰国後、20年ほど過ぎた明治36(1903)年にこれほどの灯台を建てることができたのは、この灯台を手がけた石橋絢彦ら、類まれな才能をもつ技師と、能力の高い技手の奮闘によるものだと感じる。さらにレンズは第一等を備えていたから、まさに我々が世界に誇るべき灯台だ。

昨年、重要文化財に指定された際、私はうれしさよりも、やっと評価されたことに胸をなで下ろ

した。だってこんなに美しい値の高い灯台さえも、取り壊しが検討された時期があったからだ。それは昭和中期。高度成長期の中、耐震性に不安ありということで新しくコンクリートで建て直すことを提案された。そこには裏議を唱え、老朽度の検査を行い、安全性を証明した当時の関係者がいる。出雲日御崎灯台を見上げて、残してくれた先人に感謝するところである。だが、これがなかったら、この姿はもうなかつただろ。取り壊された数々の歴史的灯台とともに、我々が灯台文化を後世に残していく責任を負っていることを実感した。(おわり)



早朝の灯籠部

先人への感謝と後世への責任

